

2008年（平成20年）10月13日（月曜日）

< 駅・空港など7割がバリアフリー化 >

国交省まとめ

1日平均5000人以上が利用する旅客施設の約7割で段差の解消が進んでいることが3日、国土交通省のまとめで分かった。

調査はバリアフリー新法に基づき公共交通事業者が報告するもの。同法では、2010年までに1日平均5000人以上が利用する旅客施設の原則バリアフリー化を目標にしている。

報告によると、2008年3月末時点で、1日に5000人以上が利用する駅や空港など2867施設のうち、段差がない施設は68%。前年度より5ポイント増加した。視覚障害者用誘導ブロックがある施設は91%、障害者用トイレがある施設は60%に上った。

駅については、全国2797駅のうち、75%にあたる2097駅で段差が解消されていた。

「仙台市交通局」、「京都市交通局」、「福岡市交通局」は段差解消率が100%。

次いで「小田急電鉄」（99%）、「横浜市交通局」（97%）、「相模鉄道」（96%）などだ。

一方、車両でバリアフリー化が進んでいる割合については、それぞれ鉄道が27%、バス（ノンステップバス）が20%、旅客船が14%、航空機が60%だった。

また福祉タクシーは1万514台で、前年度よりも863台増加した。